

NIEを活用した新聞に親しむための実践

美郷町立美郷北学園
教諭 黒木 貴 光

○ はじめに

本学園は、平成27年4月に幼稚園併設型の公立小中一貫校として開校した。幼稚園年中組から中学3年生までの11年間を見通した効果ある教育の実現に向けて取り組んでいる。

本校ならではの特色となるのは、美郷町全体で取り組んでいる4つのブロック制（幼稚園＝年中組から年長組。前期ブロック＝小学1年生から小学4年生。中期ブロック＝小学5年生から中学1年生。後期ブロック＝中学2年生から中学3年生）を基盤にした教育活動を据えていることである。それぞれの発達段階に即した教育実践が可能となることは大きなメリットである。

本年度、NIE独自認定校となったことで、まずは、新聞というメディアを身近なものにし、『いつでも・どこでも・だれにでも』親しませることに重きを置いた実践に努めることにした。

1 学園全体でNIEに取り組みやすくするための手立て

(1) 職員へのNIE研修

① 職員向けのオリエンテーション

6月12日（水）の職員研修では、田崎香織指導教諭（高千穂町立上野小中学校）を講師に招いてNIE研修会を行った。新聞活用の先行事例を数多く紹介していただき大変意義ある時間になった。『学力向上にとられることなく、とにかく先生方が気軽に楽しみながらNIEに取り組んでください！』という言葉が大変印象的であった。



【NIEの魅力伝える田崎指導教諭】

② 『NIE（新聞閲覧）コーナー』の設置

本校で一番広い屋内空間である「ひかりの庭」において自由に新聞を読むことのできる空間を確保した。

本校では、9月から10月の2カ月間で全国紙4紙と地元紙2紙、子ども新聞2紙の計8紙が届くことになった。

『いつでも・どこでも・だれにでも』新聞を手にとることができる場所として設定したこともあり、多くの学園生が訪れる姿が見られた。



【NIEコーナーで新聞を読む児童】



【NIEコーナーの様子。全国紙4紙、地元紙2紙、子ども新聞2紙を閲覧できる】

③ 学力向上研修における NIE 活用の推進

校内職員研修で「学力向上研修」が行われた。研究主任より本県児童生徒の学力の傾向と課題について説明があった。

とりわけ本年度実施の全国学力テスト問題の説明があり、情報活用能力が問われる問題が出題されていたことの説明があった。実際に問題を解く機会もあり、限られた時間で問題を解く力の必要性を感じた。

NIE によって培われる力の 1 つに多くの情報から必要な情報を選ぶこともある。新聞活用を今後も継続して取り組む意義を確認できる研修となった。



【学力向上研修の様子】

2 学園生（幼児児童生徒）に親しませるための手立て

(1) 幼稚園の実践

① 新聞コラージュの実践

新聞を身近なものに感じる工夫として、興味のある写真や文字を貼り付けていく活動を行った。特に、幼稚園の幼児は、多くの新聞を自由に広げて関心のある記事をペタペタと貼る姿が見られた。具体的な様子としては、プロ野球選手や大相撲の力士を貼ったり、気に入った文字やデザインを貼ったりとそれぞれの興味関心に沿った自由で個性あふれる作品に仕上げることができた。



【記事を切り取る幼児】



【新聞コラージュ作品】



【こども新聞作品】

② 自由な創作活動

2カ月間集中して届く新聞は、多くが古紙となる。そこで、幼稚園教諭の先生方が有効に活用する工夫として、新聞を切ったり、折ったり、曲げたり、つないだり、破ったりと想像力を膨らませる活動での実践を行った。新聞の用途が広がり、大変意義ある活用法であった。



【新聞を使った学習（発想を膨らませて自由に創作活動に取り組む幼児）】

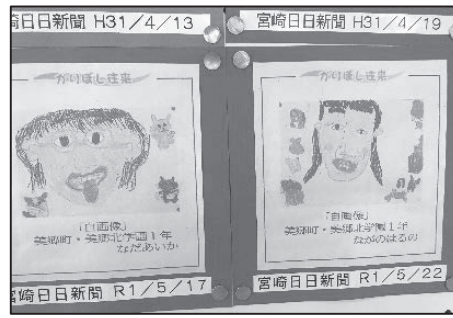
(2) 前期ブロックの実践

① 新聞投稿による掲載

前期ブロックでは、各学年で習字、絵画、作文、詩などの投稿を行った。日頃の学習活動で作った作品が新聞に掲載されることで、児童自身の自己有用感を高めることができた。また、掲載紙面を学校玄関へ掲示し、全体へ示すことでより多くの反響を得ることができた。今回の掲載については、教頭をはじめ、学習部の掲示物担当職員など多くの協力で実現することができた。



【新聞掲載コーナー】



【見やすいテロップも添えて】



【幼児にも分かりやすく】

(3) 中期ブロックの実践

① 『新聞コラム』への感想投稿

毎月、宮崎日日新聞社の紙面関連委員会から届く『教育連載における生徒の感想提供のお願い』の取り組みを行った。対象学年が中学部単体の取り組みであったため、国語科教諭に理解をいただいて実践できた。

② 『新聞スクラップ』の実施

各学年、各発達段階に応じて「新聞スクラップ」の実践を行った。中学部では、ノートを作成して実践していただき、小学部では、ワークシートに新聞を貼り付けたスクラップを行った。実践当初は、興味関心のある記事を選ぶ作業に時間がかかっていたが、回数を重ねるにしたがって、一面以外の紙面を読みながら記事を厳選する姿も見られるようになった。



【5年生の実践】



【スクラップシートに記入する児童】



【7年生の実践】



【6年生の実践】

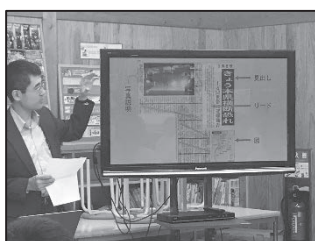
③ 『ブロック新聞』の作成・発行

中期ブロックならではの実践として、新聞記事を書く作業を行った。「ブロック集会」という朝の時間をオリエンテーションに充て、十分に説明をすることができた。時間の確保が課題となったため、予め各学年を3つのグループに分け、各学年の学級担任裁量で取材をし、記事を作った。ブロック長である7年生の記事を手本としながら、質が高く、読み応えのある記事を目指した。

新聞記者より指導いただいた4観点は以下のとおりである。記事の書き方を学ぶことに焦点化した実践となった。



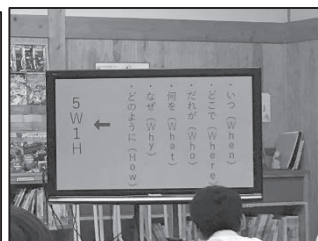
【ブロック集会の様子】



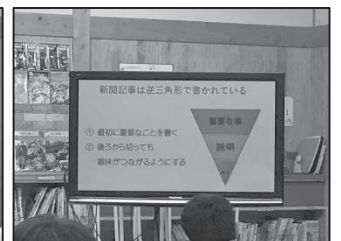
【①新聞紙面の構造】



【②記事の具体的手法】



【③記事に必要な事柄】



【④記事の構造】



【7年生が作成した記事】



【4コマを並び替える児童】

④ 「4コマ漫画」の順番並び替えゲーム

新聞に親しむきっかけとなっているのは、4コマの漫画と聞く。宮崎日日新聞には、『ゴンちゃん』（作：かまたよしろう）という漫画である。ただ漫画を読むだけでなく、4コマを取ってバラバラにしてストーリー通りに並び替えるゲームを取り入れた。4コマ漫画の説明を動画で紹介する時間も作り、漫画とは言え、起承転結があるため、文脈をとらえるという点で大変意義ある活動となった。最初は集団で試行錯誤していた児童も、次第に一人で考えて並び替え、答え合わせをしながら納得する姿も見られた。



(4) 後期ブロックの実践

① 高校入試等へ向けた学力向上対策

希望する高等学校への進路実現を図るため、日々届く厳選された記事を読むことは大変意義深い。加えて、小論文対策としても記事を読み、感想を字数制限内で書く取り組みを行った。継続することで次第に効果が出てきた。

3 次年度へ向けた成果と課題

【成果】

- 新聞からいろいろな情報を探し出すことができるようになってきた。
- 社会の出来事に対するものの見方、考え方が広がった。
- 文章の要旨を捉えられるようになってきた。
- 調べ学習の際、インターネットだけでなく、『NIEコーナー』で新聞を引っ張り出し、記事を選んで調べる児童が増えてきた。

【課題】

- 主体的・対話的で深い学びに向けて、新聞を活用する機会を計画的に設ける必要がある。
- 新聞に幅広く接することができることはよかったが、配付部数が少ないため、スクラップ等の実践では、重複した場合や異学年で同一実践を行った際にコピー等の作業が必要であった。日数を空けてスクラップをお願いする等の工夫もお願いしたが、即時性の記事の場合は、児童生徒の意欲が高くあるうちに実践してほしいと感じた。
- 2カ月間に集中して多くの新聞を取り寄せたため、保管の在り方が課題となった。